〒９０５－００１１　沖縄県名護市宮里４４７－２０　丸平第２アパート１０２号　TEL０９８－０５４－８５５５　Eメール　nago.kyodoc@bird.ocn.ne.jp
郵便振込口座番号０１７１０－０－１６６２２１　加入者名・新基地建設反対名護共同センター　２０２３・12・２（土）　４４４号

新基地建設反対名護共同センター　ニュース

沖縄・南西諸島の軍事化に反対する県民平和大集会に一万人！

沖縄は捨て石ではない

沖縄県内の七十を超える市民団体や個人でつくる「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」は十一月二十三日(木)に、沖縄・南西諸島の軍事要塞化を許さず対話による戦争回避の道を求めて、那覇市の奥武山公園陸上競技場で県民平和大集会を開催し、一万人(主催者発表)が参加しました。

正午から文化イベントで始まり、午後二時からのメインイベントの直前に北谷町の栄口青年会によるエイサーの太鼓の響きで参加者が高揚し、デニー知事が会場に到着すると高揚感は最高潮になりました。

デニー知事は「子どもたちの未来が戦争であってはならない。平和の思いを全国で、全世界で共有するために行動し、声を上げていこう。まきてぃないびらんどー(負けてはなりませんよ)」と訴え、大きな拍手に…。

基調報告で、沖縄国際大学教授の前泊博盛教授が「戦争は戦争を好む政治家の地元でやれ、中国脅威論や台湾有事等の誘導に騙されず、選挙でどんな政治家に投票するかが一番大事なこと」と力強く訴えました。各地域で反対運動の先頭で活躍されている多くの方々の発言からも大きな力が伝わってきました。

この集会に呼応して全国でも、宮城・神奈川横浜・岐阜・大阪・愛知・国会前・神奈川・京都・奈良・大分・滋賀・広島・福岡等でも連帯の声を挙げる集会等が開催され、これから大きなうねりになる予感が…。

鉱山開発による土砂採掘を監視

～とみぐすく島ぐるみ会議～

豊見城島ぐるみ会議は、毎週金曜日の午後四時三〇分から一時間、市役所前でスタンディングを実施しています。毎週十人～一五人程度の参加で「辺野古新基地建設反対！」「遺骨交じりの土砂を基地に使うな！」などのプラスターを掲げアピールをしています。最近では、新たに「ガザでの侵攻やめろ！」も掲げています。

辺野古の軟弱地盤改良工事に伴う設計変更申請を巡る裁判で最高裁は、県側の主張に対する判断を示すことなく、形式論のみで県の訴えを退けましたが、判決後に「デニー知事がんばれ！」のプラスターを掲げるといつもより多くの反応があり、県民も応援しているのだと感じます。

十月三一日には、不承認を貫く知事の対応を支えられるようにと、琉球大学教授・行政法の徳田博人教授を招いて、辺野古裁判についての学習会を企画し約四〇人が参加しました。徳田教授からは「国は憲法の保証する地方自治の本旨や地方自治法の定める原理原則に立ち返り、沖縄県との対話によって紛争の解決を図る事が大切」との解説があり、裁判への理解が深まりました。

また、沖縄戦跡国定公園内で進められている鉱山開発については、採掘で沖縄戦の戦没者の遺骨が混じる可能性があることを懸念して、南部の島ぐるみ会議で協力して監視活動を継続しています。

平和を願う

職業紹介に自衛隊？

新婦人名護支部の取り組み

新婦人名護支部部は今年一月、それまでの県本部直轄の班活動から正式に支部として発足しました。まもなく一年を迎えようとしています。

発足早々、会員のお孫さんが通う小学校の授業参観で、驚くべき事が起こりました。五・六年生を対象とした職業紹介に、自衛隊が参加していたのです。9ヵ所ほどの事業所の一つとして、オープンスペースで行われていました。主に災害救助をしていると紹介し、応急処置・救命法の説明などする後方で、戦車や戦闘機、艦船を爆撃する様子などの映像が流されていました。

ビックリした会員の報告で、名護支部では早速県本部に相談、地元の名護市議にも、教育委員会に問い合わせてもらいました。その結果、名護市内の多くの小・中学校で、自衛隊が職業紹介を実施し、教育委員会から感謝状まで受け取っている事が分かりました。

自衛隊は今や、敵基地攻撃の能力を持つ軍隊です。その本質を隠して、災害救助だけを前面に押し出して、純真な小・中学生を騙すようなやり方を許すわけにはいきません。県本部の助力と地元議員の紹介で、自衛隊が学校教育に入り込むのをやめさせるよう、市に要請をしました。その後議会の一般質問でも取り上げて頂き、継続審議となっています。

辺野古新基地建設に関わっては、ヘリ基地反対協議会の一員として、月一回、辺野古浜テントの当番を担当しています。また、個々の活動として、辺野古ゲート前の座り込みや、安和桟橋の土砂搬出現場の牛歩に毎日午前中参加している会員もいます。安和桟橋で土曜日の作業がある時には、普段はなかなか参加出来ない会員も都合をつけて、短時間でも組織的に参加するようにしています。